

令和 5 年 度

苫小牧市財政健全化及び  
経営健全化の審査意見書

苫小牧市監査委員



# 令和5年度財政健全化審査意見

## 1 審査の対象

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）に定める実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率（以下「健全化判断比率」という。）並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類

## 2 審査の期間

令和6年7月16日から同年8月21日まで

## 3 審査の概要

市長から提出された健全化判断比率が関係法令に基づき適正に算定され、その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかどうかを主眼として実施した。

## 4 審査の結果

審査に付された健全化判断比率の算定及びその算定の基礎となる事項を記載した書類の作成は、いずれも適正に行われていると認めた。

（単位：％）

健全化判断比率	5年度	4年度	5年度 早期健全化基準
① 実質赤字比率	—	—	11.42
② 連結実質赤字比率	—	—	16.42
③ 実質公債費比率	7.7	7.1	25.0
④ 将来負担比率	71.9	63.2	350.0

・実質赤字額がない場合は、実質赤字比率及び連結実質赤字比率を「—」と表示している。

## 令和5年度経営健全化審査意見

### 1 審査の対象

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に定める資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類

### 2 審査の期間

令和6年7月16日から同年8月21日まで

### 3 審査の概要

市長から提出された資金不足比率が関係法令に基づき適正に算定され、その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかどうかを主眼として実施した。

### 4 審査の結果

審査に付された資金不足比率の算定及びその算定の基礎となる事項を記載した書類の作成は、いずれも適正に行われていると認めた。

(単位：%)

会計名	5年度	4年度	経営健全化基準
① 水道事業会計	—	—	20.0
② 下水道事業会計	—	—	
③ 市立病院事業会計	—	—	
④ 公設地方卸売市場事業会計	—	—	

・資金不足額がない場合は、資金不足比率を「—」と表示している。

# 令和5年度財政健全化及び経営健全化審査意見資料

## 1 健全化判断比率の状況

### (1) 実質赤字比率

実質赤字比率は、標準財政規模に対する一般会計等に区分される会計の実質赤字額の比率を示すものである。

当年度も実質赤字額がなく、比率は算定されていない。

実質収支額及び実質赤字比率の状況は、次表のとおりである。

(単位：千円)

区 分	5年度	4年度	増減
実質収支額	1,221,715	1,595,262	△ 373,547
実質赤字額 ①	—	—	—
標準財政規模 ②	41,683,675	40,924,240	759,435
実質赤字比率 ①/②	—	—	—

・該当する数値がない場合は、「—」と表示している。

### (2) 連結実質赤字比率

連結実質赤字比率は、標準財政規模に対する全ての会計を対象とした実質赤字額又は資金不足額の合計額の比率を示すものである。

当年度も連結実質赤字額がなく、比率は算定されていない。

各会計の実質収支額、資金不足額又は資金剰余額（以下「実質収支額等」という。）及び連結実質赤字比率の状況は、次表のとおりである。

(単位：千円)

区 分				5年度	4年度	増減	
実質 収支 額 等	一般会計等			1,221,715	1,595,262	△ 373,547	
	公 営 事 業 会 計	公 営 企 業 会 計	法 適 用	国民健康保険事業特別会計	5,367	5,322	45
				介護保険事業特別会計	299,221	457,340	△ 158,119
				後期高齢者医療特別会計	82,871	79,705	3,166
				水道事業会計	1,776,751	1,809,494	△ 32,743
				下水道事業会計	1,538,759	1,620,736	△ 81,977
				市立病院事業会計	2,095,081	2,510,093	△ 415,012
				公設地方卸売市場事業会計	365,908	376,976	△ 11,068
	合 計				7,385,673	8,454,928	△ 1,069,255
	連結実質赤字額 ①				—	—	—
標準財政規模 ②				41,683,675	40,924,240	759,435	
連結実質赤字比率 ①/②				—	—	—	

・該当する数値がない場合は、「—」と表示している。

### (3) 実質公債費比率

実質公債費比率は、一般会計等の公債費に、企業会計や苫小牧港管理組合の地方債償還のための一般会計等の繰入金、負担金、公債費に準じる債務負担行為などを加えた額から特定財源や地方交付税の基準財政需要額に算入される額を控除した実質的な公債費の標準財政規模を基本とした額に対する比率の3年間の平均値である。

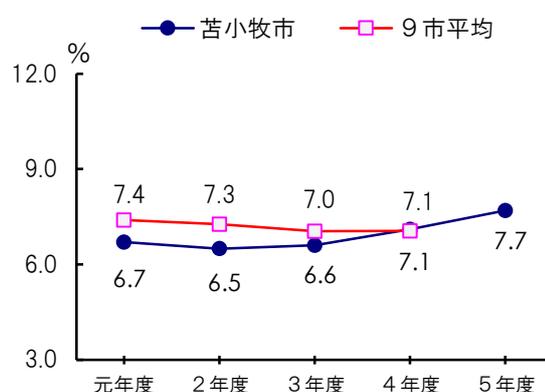
当年度の実質公債費比率は7.7%で、前年度と比較して0.6ポイント上昇となっている。

実質公債費比率の状況は、次表のとおりである。

(単位：千円)				
区 分	3年度	4年度	5年度	対前年度増減
元利償還金 ①	7,445,864	7,703,260	7,695,543	△ 7,717
準元利償還金 ②	2,314,487	2,190,507	2,225,549	35,042
公営企業繰入金(地方債償還財源分)	1,694,177	1,650,804	1,649,419	△ 1,385
苫小牧港管理組合負担金(地方債償還財源分)	358,562	361,985	399,795	37,810
公債費に準じる債務負担行為	261,748	177,718	176,335	△ 1,383
一時借入金の利子	0	0	0	0
特定財源 ③	2,062,267	2,096,839	1,958,335	△ 138,504
地域振興特別対策事業費道補助金	37,685	99,953	100,395	442
貸付金元利償還金	38,817	37,800	37,800	0
公営住宅使用料	270,964	274,168	204,079	△ 70,089
地方債償還に充当した都市計画税	1,595,033	1,569,449	1,519,400	△ 50,049
その他	119,768	115,469	96,661	△ 18,808
基準財政需要額算入額 ④	5,061,656	4,981,387	4,948,305	△ 33,082
標準財政規模 ⑤	41,747,087	40,924,240	41,683,675	759,435
実質公債費比率(単年度) (①+②-③-④)/(⑤-④)	7.2%	7.8%	8.2%	0.4ポイント
実質公債費比率(3か年平均)	6.6%	7.1%	7.7%	0.6ポイント

道内の人口10万人以上の市における実質公債費比率の推移は、次のとおりである。

(単位：%)					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
苫小牧市	6.7	6.5	6.6	7.1	7.7
札幌市	2.1	2.6	2.7	2.9	
函館市	7.3	6.4	5.1	5.1	
小樽市	7.5	6.8	5.7	4.7	
旭川市	8.1	8.2	8.3	8.5	
釧路市	10.9	11.0	10.7	10.7	
帯広市	8.9	8.7	8.4	8.3	
北見市	8.0	8.9	10.3	11.1	
江別市	7.1	6.3	5.6	5.1	
9市平均	7.4	7.3	7.0	7.1	



出典：北海道総合政策部地域行政局市町村課「令和4年度道内市町村決算の概要」より

(4) 将来負担比率

将来負担比率は、一般会計等の地方債や債務負担行為に基づく支出予定額、企業会計や苫小牧港管理組合の地方債償還のための一般会計等の繰入金、負担金、退職手当の負担見込額などの決算年度末時点における将来の負担額から、これらに充当することが可能な基金や特定の歳入、地方交付税の基準財政需要額に算入される見込みの額を控除した将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模を基本とした額に対する比率である。

当年度の将来負担比率は71.9%で、前年度と比較して8.7ポイント上昇している。

将来負担比率の状況は、次表のとおりである。

(単位：千円)

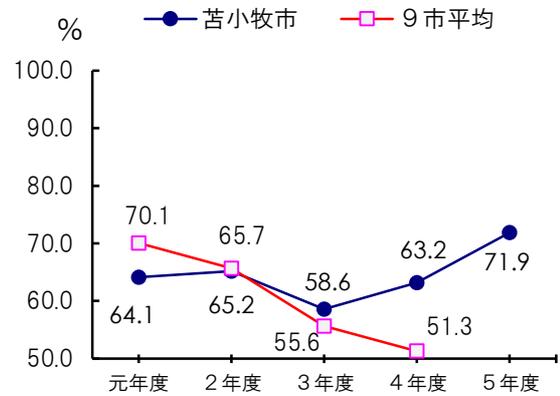
区 分		5年度	4年度	増減
将来負担額	地方債現在高	86,819,753	88,143,736	△ 1,323,983
	債務負担行為に基づく支出予定額	4,667,513	3,712,809	954,704
	PFI事業	3,337,030	2,217,338	1,119,692
	社会福祉法人施設建設費	188,773	218,448	△ 29,675
	その他	1,141,710	1,277,023	△ 135,313
	公営企業債等繰入見込額	16,507,270	17,493,578	△ 986,308
	苫小牧港管理組合負担見込額	4,786,736	4,412,324	374,412
	退職手当負担見込額	7,083,295	6,670,418	412,877
	設立法人負債額等負担見込額	-	-	-
	連結実質赤字額	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-
合 計 ①	119,864,567	120,432,865	△ 568,298	
充当可能財源等	充当可能基金	16,837,590	15,873,598	963,992
	充当可能特定歳入	19,658,060	22,594,187	△ 2,936,127
	都市計画税	12,313,821	14,013,480	△ 1,699,659
	その他	7,344,239	8,580,707	△ 1,236,468
	基準財政需要額算入見込額	56,933,616	59,236,816	△ 2,303,200
合 計 ②	93,429,266	97,704,601	△ 4,275,335	
標準財政規模 ③	41,683,675	40,924,240	759,435	
算入公債費等の額 ④	4,948,305	4,981,387	△ 33,082	
将来負担比率 (①-②)/(③-④)	71.9%	63.2%	8.7ポイント	

・該当する数値がない場合は、「-」と表示している。

道内の人口10万人以上の市における将来負担比率の推移は、次のとおりである。

(単位：%)

区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
苫小牧市	64.1	65.2	58.6	63.2	71.9
札幌市	49.7	43.0	29.3	21.8	
函館市	52.4	46.1	40.1	37.4	
小樽市	36.8	34.5	30.1	26.0	
旭川市	90.7	85.8	81.9	82.0	
釧路市	83.6	70.5	57.4	49.3	
帯広市	82.3	70.2	54.4	38.0	
北見市	144.0	158.9	147.5	143.8	
江別市	27.1	16.8	1.3	-	
9市平均	70.1	65.7	55.6	51.3	



出典：北海道総合政策部地域行政局市町村課「令和4年度道内市町村決算の概要」より

・該当する数値がない場合は、「-」と表示している。

(参考) 各会計地方債現在高の状況

(単位：千円)

区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
一般会計	87,492,117	91,068,772	90,917,836	88,143,736	86,819,753
普通債	50,776,950	55,278,058	55,988,114	55,657,025	56,964,032
災害復旧債	139,231	129,186	108,981	88,768	68,545
減税補填債	441,046	326,415	229,380	149,840	87,680
臨時財政対策債	33,186,483	33,084,584	32,990,413	31,253,963	29,036,736
退職手当債	434,040	242,840	100,000	0	0
第三セクター等改革推進債	2,465,280	1,974,900	1,484,520	994,140	662,760
上下水道事業出資債	49,086	32,789	16,427	0	0
水道事業会計	15,765,872	15,856,457	16,241,420	16,413,931	16,186,372
下水道事業会計	29,751,575	29,120,398	28,495,433	27,787,005	27,027,145
市立病院事業会計	9,343,144	8,863,054	8,786,051	8,292,058	7,762,336
公設地方卸売市場事業会計	142,355	114,370	85,668	80,818	75,905
合計	142,495,064	145,023,052	144,526,407	140,717,547	137,871,512

・表中の金額は千円未満を四捨五入して表示しているため、合計とその内訳の合計などが一致しない場合がある。

## 2 資金不足比率の状況

資金不足比率は、公営企業会計に区分される会計における資金不足額の事業規模に対する比率である。対象となる会計は、水道事業、下水道事業、市立病院事業及び公設地方卸売市場事業の4会計で、いずれも資金不足額がなく、比率は算定されていない。

各会計の資金不足比率の状況は、次表のとおりである。

(単位：千円)

区 分		5年度	4年度	増減
水道事業会計	資金不足額 ①+②-③-④	△1,776,751	△1,809,494	32,743
	流動負債の額-控除企業債 ①	456,887	469,342	△ 12,455
	建設改良費以外の地方債現在高 ②	0	0	0
	流動資産の額 ③	2,233,638	2,278,836	△ 45,198
	解消可能資金不足額 ④	—	—	—
	事業の規模 ⑤-⑥	2,700,089	2,528,867	171,222
	営業収益の額 ⑤	2,737,661	2,560,959	176,702
	受託工事収益の額 ⑥	37,572	32,092	5,480
	資金不足比率 (①+②-③-④)/(⑤-⑥)	—	—	—
下水道事業会計	資金不足額 ①+②-③-④	△1,538,759	△ 1,620,736	81,977
	流動負債の額-控除企業債 ①	1,131,846	706,264	425,582
	建設改良費以外の地方債現在高 ②	0	0	0
	流動資産の額 ③	2,670,605	2,327,000	343,605
	解消可能資金不足額 ④	—	—	—
	事業の規模 ⑤-⑥	3,288,630	3,302,704	△ 14,074
	営業収益の額 ⑤	3,288,630	3,302,704	△ 14,074
	受託工事収益の額 ⑥	0	0	0
	資金不足比率 (①+②-③-④)/(⑤-⑥)	—	—	—
市立病院事業会計	資金不足額 ①+②-③-④	△ 2,095,081	△ 2,510,093	415,012
	流動負債の額-控除企業債 ①	1,176,747	1,225,557	△ 48,810
	建設改良費以外の地方債現在高 ②	0	0	0
	流動資産の額 ③	3,271,828	3,735,650	△ 463,822
	解消可能資金不足額 ④	—	—	—
	事業の規模 ⑤-⑥	9,405,856	8,610,334	795,522
	医業収益の額 ⑤	9,405,856	8,610,334	795,522
	受託工事収益の額 ⑥	0	0	0
	資金不足比率 (①+②-③-④)/(⑤-⑥)	—	—	—

(単位：千円)

区 分		5年度	4年度	増減
公設地方卸売市場事業会計	資金不足額 ①+②-③-④	△ 365,908	△ 376,976	11,068
	流動負債の額-控除企業債 ①	14,188	56,744	△ 42,556
	建設改良費以外の地方債現在高 ②	0	0	0
	流動資産の額 ③	380,096	433,720	△ 53,624
	解消可能資金不足額 ④	-	-	-
	事業の規模 ⑤-⑥	50,799	59,212	△ 8,413
	営業収益の額 ⑤	50,799	59,212	△ 8,413
	受託工事収益の額 ⑥	0	0	0
	資金不足比率 (①+②-③-④)/(⑤-⑥)	-	-	-

- ・資金不足額の△表示は、黒字を表している。
- ・控除企業債は、当年度決算において貸借対照表の流動負債に計上されている建設改良費等の財源に充てるための企業債の額である。
- ・該当する数値がない場合は、「-」と表示している。

(参考) 各会計資金不足額の状況

(上段は資金不足額 単位：千円)

(下段は資金不足比率 単位：%)

区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
水道事業会計	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
下水道事業会計	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
市立病院事業会計	1,295,982	226,008	-	-	-
	14.2	2.8	-	-	-
公設地方卸売市場事業会計	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-

- ・該当する数値がない場合は、「-」と表示している。



この印刷物は環境に配慮した紙を使用しており、不要になった際にはリサイクル（再利用）することができます。